



# 麻布未来写真館

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会  
令和4年度(2022年度)活動報告  
港区麻布地区総合支所



# 区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

## 令和4年度（2022年度）活動報告

### はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、これまでに取り組んだ活動の記録です。

### 「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆さんの地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

令和5年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

### 《 目 次 》

#### はじめに

I	分科会活動の概要	01
	「麻布未来写真館」とは	01
	分科会活動記録（令和4年度）	02
II	分科会メンバー作成パネルの紹介	07
	パネルの作成	07
III	これまでの活動を振り返って	21
	メンバーのことば	21

## 「麻布未来写真館」とは

### 「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模なまちづくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

### 事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

### 区民との協働事業

広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。

また、分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力のもと、「パネル展（常設展示・企画展示）」により広く公開しています。

### 区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区のめざまちの姿「誰もが主役になれる参画と協働のまち ～未来につなぐニューノーマルを創造する“AZABU”～」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、令和 5 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の 3 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。



## 分科会活動記録（令和4年度）

### 分科会の実施

I  
分科会活動の概要

「麻布未来写真館」の事業推進にあたって、令和4年度は、分科会を全12回開催（うち2回は、「まち歩き（撮影）」を各回2日程で実施）、あわせてワーキングの実施、個別オンラインでのやり取りも積極的に活用し、メンバー間、メンバーと事務局間による意見交換やパネル作成に向けた検討等を行いました。



オンラインでの参加も可能な分科会運営を実施



パネル作成に向けた画像選定作業

令和4年	4月19日（火）	プレ分科会：自己紹介、情報交換等
	5月26日（木）	第1回分科会：令和4年度の活動等について
	6月4日（土）	第2回分科会：まち歩き（撮影）A日程
	6月5日（日）	第2回分科会：まち歩き（撮影）B日程
	7月14日（木）	第3回分科会：撮影レビュー、令和4年度の活動について等
	9月8日（木）	第4回分科会：令和4年度に作成するパネルについて等
	10月6日（木）	第5回分科会：パネル作成に向けた検討・今後の作業確認等
	11月17日（木）	第6回分科会：まち歩き（撮影）、パネル作成に向けた検討等
	11月26日（土）	第7回分科会：まち歩き（撮影）A日程
	12月4日（日）	第7回分科会：まち歩き（撮影）B日程
	12月9日（金）	第8回分科会：撮影レビュー及びパネル作成に向けた検討等
令和5年	1月12日（木）	第9回分科会：令和4年度に作成するパネルについて
	2月15日（水）	第10回分科会：令和4年度に作成するパネルについて
	3月1日（水）	第11回分科会：令和4年度に作成するパネルについて
	3月22日（水）	第12回分科会：今年4年度に作成するパネルについて等

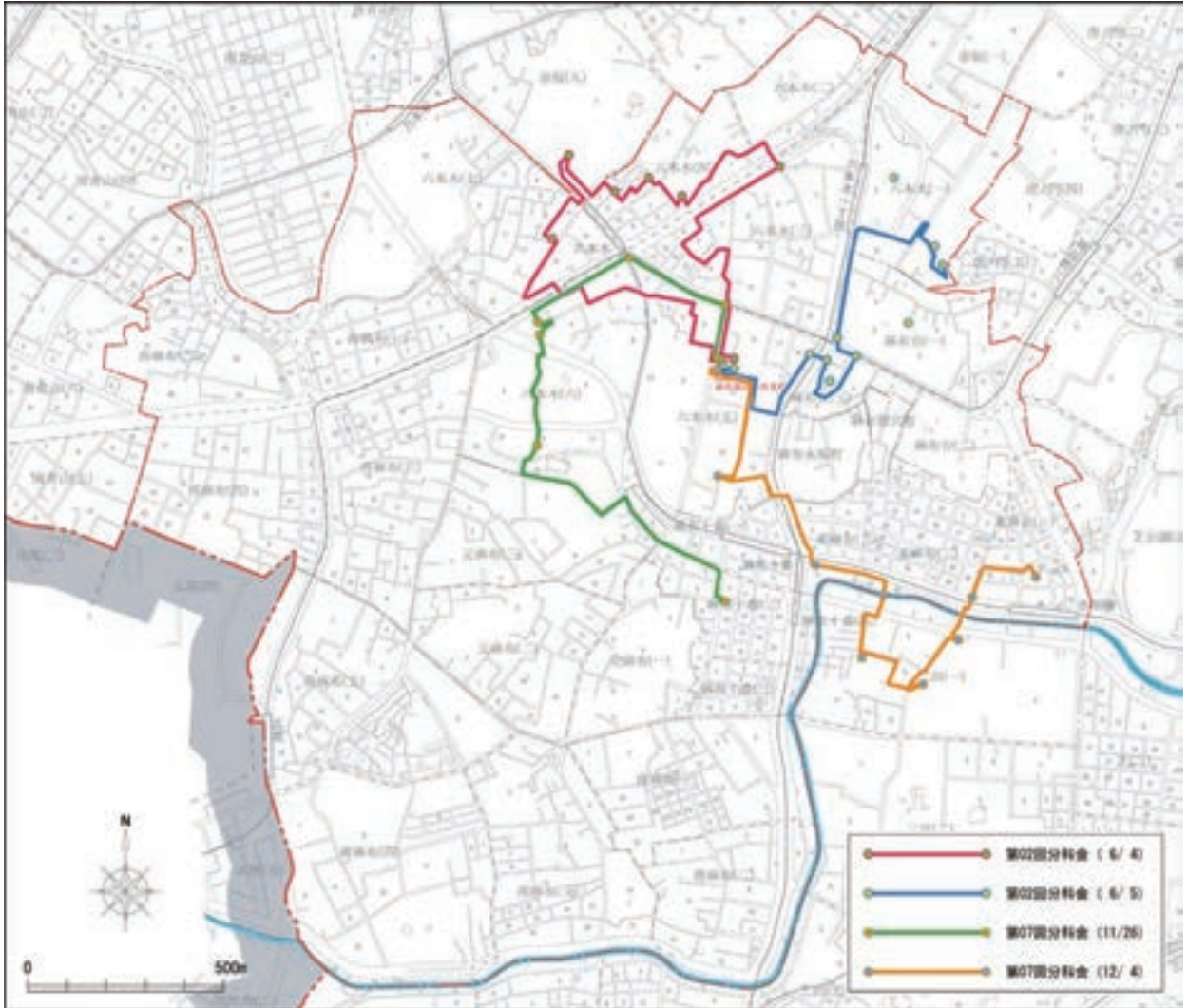
### 区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

荒澤 経子、石井 諒太、入江 誠 [副座長]、及川 廣子、大原 美帆、岡崎 純子、小澤 知可子、  
 近藤 敏康 [座長]、椿 由美子、露木 尚文、野村 知義、水野 禮子、宮崎 則行 [副座長]、八巻 綾子、  
 吉川 一郎、街いく探検隊 (若松 保治) 50音順 (令和5年3月1日現在)



## まち歩き（撮影）の実施

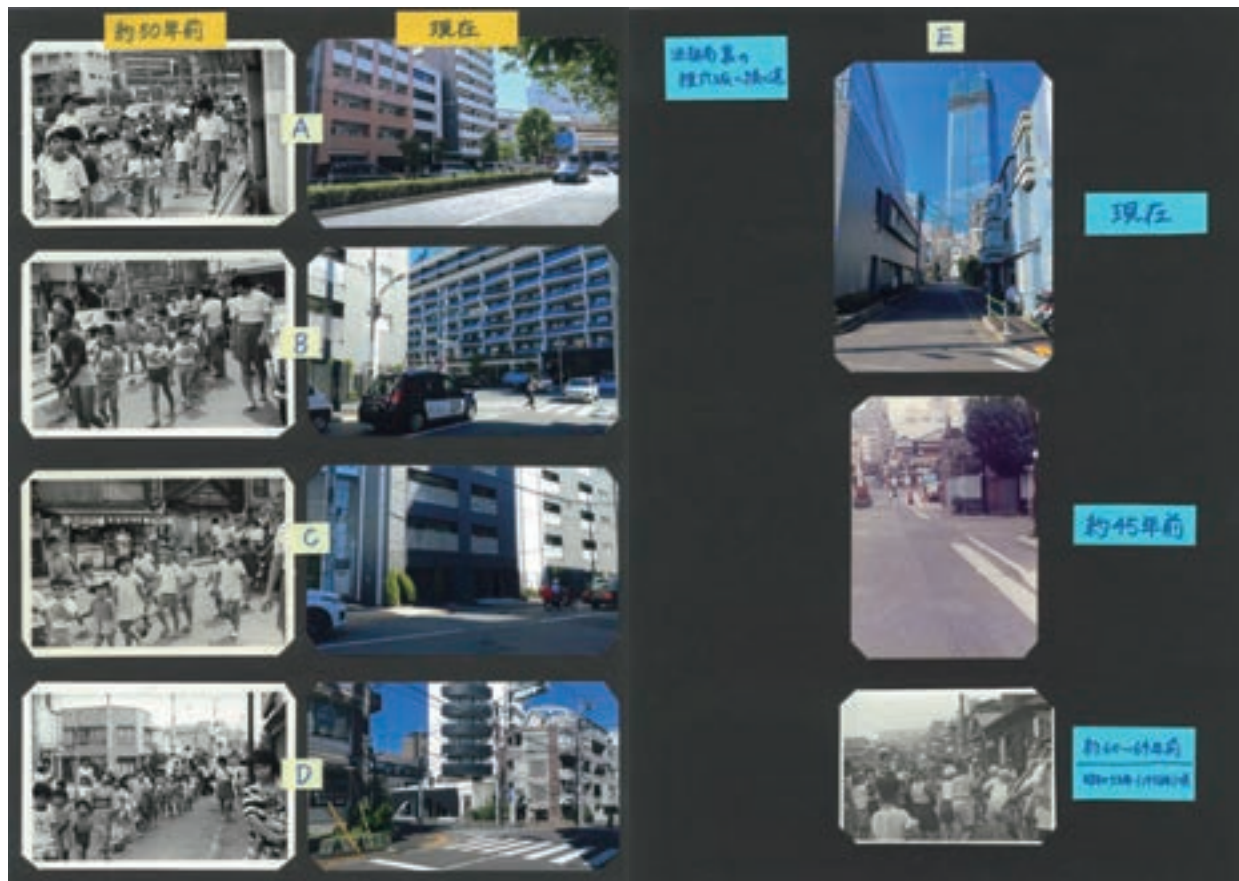
令和4年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。





## 資料の収集と情報発信

「麻布未来写真館」では、地域事業等での活用、区民・観光客等への情報提供といった地域発展を目的に、区民等の皆さまから提供いただいた写真・資料について、記録・保存を行っています。また、これまでに作成したパネル貸出し・資料募集についての周知、SNS等を活用したメンバーの自主的な情報発信についても積極的に行っています。



区民等の皆さまからの提供写真：令和4年度も多くの区民等の皆さまから写真・資料を提供していただきました。

## 地域事業等との連携

麻布地区総合支所が独自に実施する取組（地域事業）との連携による事業については、令和4年度も継続して「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携を行いました。その他、区内学校とも積極的に交流を深め、連携事業を推進しています。



「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携イベント：飯倉いきいきプラザにて麻布の地図を広げ、昔の麻布の写真を見ながら、思い出を語り合うプログラム。あわせて、パネル展を開催しました。 令和4年（2022年）11月2日



「あざぶ達人ラボ」との連携：「あざぶカルタ」を使って、麻布の魅力を伝えるセミナー「あざぶ達人ラボ×麻布図書館連携事業「あざぶカルタ」で「麻布をカタル」」の開催にあたって、かるたの札に関係のあるパネルを展示しました。



「ミナヨク」との連携：ミナヨク参加者に対して、麻布のまちの移り変わりを写真で説明するとともに、麻布未来写真館の活動について講演しました。



「ミナヨク」のメンバーと合同でのまち歩き（撮影） 令和4年（2022年）11月26日



## パネル展の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでも開催してきた「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

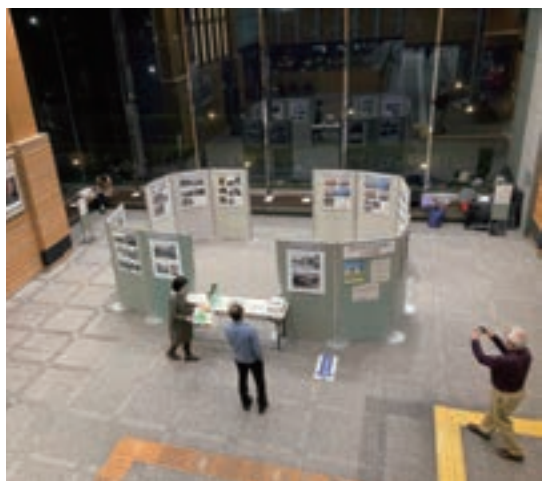
事業開始から14年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方から、写真等のご提供など多大なご支援とご協力を賜り、令和4年度はパネル展を延べ8回開催しました。

いきいきプラザ（南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉）でのパネル展では毎年行われる「ほのぼの作品展」と連携した展示を令和3年度に続き開催しました。

また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所2階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行っています。



「ほのぼの作品展」と連動して開催した、各いきいきプラザでのパネル展（左上：麻布、右上：ありす、左下：西麻布、右下：南麻布）



区役所ロビーでの企画展



港区総合防災訓練の開催にあわせて実施した支所ロビーでの企画展



## II 分科会メンバー作成パネルの紹介

### パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関等の協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。

麻布の銭湯 ー東麻布エリアー	08
麻布の銭湯 ーアークヒルズの場所にあった天徳湯ー	09
夜のまち歩き 麻布地区総合支所～六本木～麻布十番	10
夜の麻布 わたしのイチオシ	11
街いく探検隊 麻布・六本木の珍しいもの発見	12
街いく探検隊 子ども達が見つけた街の珍しいもの	13
六本木五丁目周辺 六本木五丁目交差点（ロアビル）	14
六本木七丁目周辺 大きく変貌した場所	15
六本木三丁目周辺 なだれ坂	16
八幡町歩道橋がなくなった！！ 再開発が進む我善坊	17
麻布とアニメ アニメの重要シーンに見る麻布の景色	18
麻布とアート パブリックアートと現代アートのまち	19
3年ぶりの防災訓練	20



退色しにくく、保存性に優れたプリントにより作成したパネルは、フジフィルムスクエア等での企画展、区有施設等での常設展示などで活用しています。

### 写真について

これまで作成した多くのパネルで新旧の比較を行っていますが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていません。また、変化の様子をとらえるために、あえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図としました。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに、撮影条件や画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えています。

# 麻布の銭湯 —東麻布エリア—

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和33年(1958年):「昭和33年東京タワー建設中の様子」港区教育委員会/アヅタル地区教育史  
建設中の東京タワーがどんどん高くなり、遂に銭湯の煙突より高くなった瞬間を捉えた一枚。  
正面の銭湯はのざわ湯。道路を隔てた手前に「パーマ」の看板を掲げる店舗と、印刷屋の看板を  
掲げる店舗が並ぶ。



令和5年(2023年):  
銭湯は6階建てのマンション(麻布ハイツ)にかわり、背後にはさらに高いビルも建ったが、東京  
タワーが正面に見える道路は昔のまま。印刷屋(オレンジ色の建物)も同じ場所です。



東麻布は、江戸期から賑わう板田通り沿いの街並みと、近代以降工場集積地となった吉川沿いにはさまれた、銭湯利用者の多いエリアだった。

左は、昭和12年(1937年)の地図。銭湯の場所には煙突のマークが記されている。当時は6軒の銭湯があったが、戦後も営業を継続できたのはのざわ湯・松の湯・花の湯のみ。その3軒も昭和の終わりにすべて姿を消した。

- ① のざわ湯(戦前の屋号は和倉湯)
- ② 松の湯
- ③ 花の湯
- ④ 天満湯
- ⑤ 野沢湯
- ⑥ 東湯(昭和初期の屋号は東廣湯)

## 麻布の銭湯 - アークヒルズの場所にあった天徳湯 -



昭和48年(1973年):旧麻布谷町(天徳湯埋没跡)  
現在の道徳寺付近から雲南坂教会方向を眺めた景色。この一帯は戦災被害が少なく、再開発まで古い街並みが残った。永井荷風が昭和19年(1944年)に「道徳寺の園より谷町通を見下ろし、道徳の煙突より遠」と書いたのは、この写真の光景だったかもしれない。



昭和49年(1974年):旧麻布谷町(空写真を拡大したアングル)  
向かって左側(煙突の右)の急な石段を登ると雲南坂教会へ通じていた。



令和5年(2023年):推定撮影地から  
推定撮影地から「旧雲南坂教会礼拝堂所在地」の跡がある方向を見る。急階段はなだらかな坂に変わった。



赤瀬川源平著「建築術トマソン」で一躍有名になった銭湯「天徳湯(当時「麻布谷町47」)の煙突。写真が撮影された昭和48年(1973年)は、港区が「再開発基本計画」を発表し、この一帯が後のアークヒルズとなる事が決定された年。この時、銭湯は既に廃業して跡地は駐車場になっていたが、危険を伴う煙突解体工事は、再開発の着工(昭和58年(1983年))まで延期されていた。

当時の地図と照らし合わせると、道徳寺(推定される撮影場所付近)、道徳寺直下の建物群、銭湯跡地の駐車場、銭湯煙突下から雲南坂教会に向けて伸びる急階段(覆木板)が確認できる。

# 夜のまち歩き 麻布地区総合支所～六本木～麻布十番

令和4年(2022年)11月26日の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布地区総合支所前からスタートして「七曲りの隧道」へ、最初の建物はほぼ解体されて再開発を待つ。



ロアビル裏の駐車場脇にひびとぎわ目立つハードロックカフェのネオンサイン、右奥に六本木ヒルズ。



外苑東通りに出ると正面に東京タワー、右手前ロアビル、左手奥にドンキホーテ。



麹町橋下、飲食店前に賑やかに並ぶ霓虹の灯り。



芋洗坂を登り六本木通りへ、正真正正高層道地がある。



六本木交差点を行き交う人々。



六本木交差点の中心、高速道路の真下から渋谷方向を見る。



六本木ヒルズノースタワー1階の園芸店が長い歴史に幕を閉じる。



六本木ヒルズの中には、思わずシャッターを押したくなるキラキラ美しいスポットが多数。コロナ禍での外出制限が続き、このような賑わいは久しぶりだ。



六本木ヒルズを出ると一転して暗く静かな住宅街。そこから麻布十番商店街に出ると一転して明るくなる。玩具屋のショーウィンドウは見ているだけで幸せな気分。

# 夜の麻布 わたしのイチオシ

令和4年(2022年)の麻布

II  
分科会メンバー作成パネルの紹介



夜の六本木はタクシーばかり。夜が深くなればなるほどタクシーは完売である。渋谷方面との鉄道でのアクセスが悪いこともひとつの原因だろうか。タクシーといえばクラウンとはもう言えず、すべてがジャパンタクシーの車両である。



令和4年(2022年)11月26日:けやき坂のイルミネーションをスマートフォンで撮影する人形と白いコートの二人の若い女性



けやき坂下の横断歩道。ウィンターシーズンにはブルーのイルミネーションで彩られる。



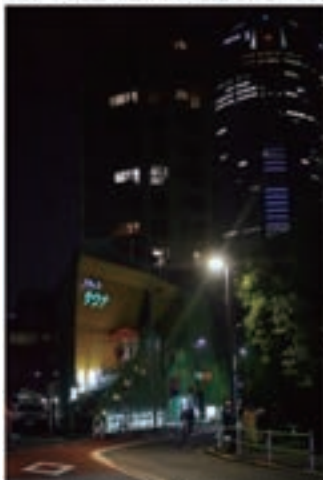
2022年11月24日、六本木ヒルズ森タワー49Fからの撮影時の夜景。この日は空気が澄んでおりスカイリナーまでクリアに見えました。森タワーは、サッカーW杯カタール大会初戦で日本が勝利した記念に“SAMURAI BLUE”にライトアップされました。森タワーの土留壁が白いのは、まだ建設中のためです。



[写真左] 平成元年から続く、麻布海陽町の開発を知らせるのぼりの立つ後の麻布地区総合支所、地下の区民センターホールへの入り口付近。海陽町というのは、いろいろな創設のさまざまなお芝居を気味にみでただけるように、と“海陽町”という名称にしたと伝わっています。[写真右] 六本木交差点近くの早稲畑と丸屋橋に挟まれた東道に囲まれた一角。車止めのある雑道が迷路のように通っています。再開発で大きく変わる前に夜の姿を記録に残しました。



令和4年(2022年)4月:国際文化会館本館エントランス前からの撮影。真昼に近いメインゲートへと続く坂道の手前にはライトアップされた満開の桜。背景に再開発工事が続く「麻布台ヒルズ」のメインタワーと東京タワーが見える。



住民団塊でのイチオシ:今も残る江戸時代の藩政が西麻布のまちは見られ、表通りから少し奥に入ると野かな夜の麻布が広がります。[写真左]甲斐大使館前がある江戸時代の高層のクラウンと、後年つくられた斜めの道の両方が残る三角形の土地と建物。奥には六本木ヒルズ森タワーが見られます。文明開化期(明治9~19年:1876 - 1886)の地帯にはクラウンのみだったこの場所。明治の終わり(明治39~42年:1906 - 1909)の地帯には、斜めの道ができています。[写真右]昔(ころが)小学校前の坂道。上部は車の通り抜けが難しい。江戸時代の道幅が感じられる坂道が続きます。この坂道を下ると、外苑西通りにつきあたります。



令和4年(2022年)4月:国際文化会館本館エントランス前からの撮影。真昼に近いメインゲートへと続く坂道の手前にはライトアップされた満開の桜。背景に再開発工事が続く「麻布台ヒルズ」のメインタワーと東京タワーが見える。



令和4年(2022年)4月:国際文化会館本館エントランス前からの撮影。真昼に近いメインゲートへと続く坂道の手前にはライトアップされた満開の桜。背景に再開発工事が続く「麻布台ヒルズ」のメインタワーと東京タワーが見える。

# 街いく探検隊 麻布・六本木の珍しいものの発見

令和3年(2021年)から令和5年(2023年)の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



**パブリックアートもあそび場!** けやき坂通りには提供されるストリートファニチャーがいくつもありますが、子どもたちの手にかかると、もはや遊具、アートが生活の一部になるということ子どもたちが率先して表現してくれたようです。



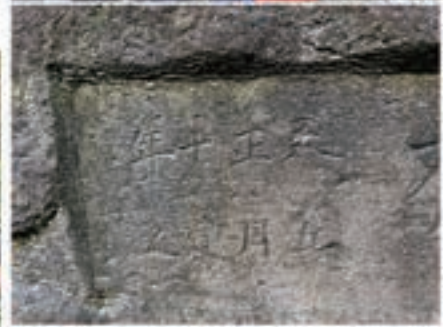
**防空壕の入口発見!** 六本木5丁目の字高い坂下の横壁に、コンクリートで固められた防空壕と思われる入口が! この壕はどこまで続いていたのでしょうか? こちらも六本木五丁目の再開発で姿を消すとと思われるので、昔でしっかり目に焼き付けました。防空壕の入口はとてもしっかりとした造りでした。



**取り残された古い欄干** テレ朝通りの麻布消防署を下った宮村坂の入口に、コンクリート製の古い欄干を発見! ここは欄干があったのかな? 崖に落ちないための欄干かな? 隣接する建物との新旧のコントラストも面白いですね。



**麻布の原風景 宮村橋** 宮村坂下の狐塚と交わるあたりにビオトープ「宮村池」がありました。こんなところに池があるとびっくりする子ども達は、魚を見つけて二度びっくりでした。100年前はこんな風景がそこここにあったのでしょうか。



**戦国時代の石** 大塚坂にある大法寺さんの裏手の石積みのお堂の中に天正十年五月と刻まれた石を発見。天正十年(1582年)は天正遺跡発掘調査が実施され、本堂の礎石が記された年です。礎石は戦後に作られたようですが、なぜここにあるのか謎です。



**水の流れを発見!** 麻布の中で珍しいお堀になっているところには石柱の古い堰干がありました。ここは今でもそれなりの水量があって、ザァーザァーと音がします。ここから下流は暗渠で麻布十番の裏路地にながれているようです。



**埋もれた堀** 六本木ヒルズのさくら坂の脇に、細く古い堀を発見。これは、六本木ヒルズによる再開発前にここにあった玄關堀と内堀堀を結ぶ堀ですが、堀の下半分は再開発で埋められて、今のさくら堀ができました。

街いく探検隊は子どもが主役のゴミ拾い&まち探検活動を行うボランティア団体です。六本木にある妙経寺さんを中心に麻布・六本木エリアで毎月1回活動しています。



# 街いく探検隊 子ども達が見つけた街の珍しいもの

令和3年(2021年)から令和5年(2023年)の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



**大湯寺さんの鳥骨粥** 大湯場にある大湯寺さんには、鳥骨粥が売っていました。新型コロナウイルス感染拡大のため、外遊びが制限された子ども達のために、鳥骨粥を固から粉化させて売ってたそうです。ミニ動物園のようで、エサやりに子ども達も夢中です。鳥骨粥は早朝から大きく売るので、朝の鳥骨粥の多くは養子に出されたそうです。



**街中の化石たち** 六本木の石村の中に、ペレムナイト(絶滅したイカの様な軟体動物)を発見! この他にもアンモナイトやウラゲの様な化石も売って子ども達も大興奮です。ここより大きなアンモナイトがミッドタウン・イーストの1階入口にもありました。



**ヘビの抜け殻発見!** 麻布十番大通りの一本道の暗渠沿いで、ゴミ拾い中にヘビの抜け殻を発見! 湿気が多く、入道りも少ない場所ですが、今でもヘビが潜んでいるのには驚きました。抜け殻は頭から尻まで50cm以上はある、立派なものでした。発見したのは1月、麻布十番のどこかで冬眠しているのでしょうか。子ども達もおっかなびっくりで覗いていました。



**木がガブリ!** テレ朝通りにあるビルの手すりにガブリと噛みついて見えている木の幹の一部を発見! どうしてこうなったのか、子ども達も興味津々です。このビルのオーナーの方が、お子さんが生まれたことを記念して植樹したそうですが、大きくなりすぎたため切ったそうです。一部だけ遺されたところに跡いがありそうです。



**ラーメン自販機** 麻布十番のダイエー前で見つけたラーメンの自動販売機。ここで食べれるのかと思いきや、冷凍でした。ロシアのウクライナ侵襲に反対する、ウクライナ国旗カラーでデザインされた機体が時代を反映しています。



**折り畳み式電動バイク?** 西麻布で小輪の様な電動バイクのステーションを発見。一輪車のように見えますが、折り畳み式でコンパクトに収まっています。貸出用の水色のヘルメットもありました。最近、電動のシェアサイクルは前中でよく見かけますが、子ども達も怖しそうにのぞき込んでいます。

街いく探検隊は子どもが主役のゴミ拾い&まち探検活動を行うボランティア団体です。六本木にある妙経寺さんを中心に麻布六本木エリアで毎月1回活動しています。



# 六本木五丁目周辺 六本木五丁目交差点(ロアビル)

平成から令和の麻布／令和4年(2022年)、令和5年(2023年)の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



**平成21年(2009年)：六本木五丁目交差点付近**  
 外苑通り沿いにある六本木五丁目交差点といえば、真っ先に思い浮かぶのがロアビルの存在だ(写真中央)。竣工は昭和48年(1973年)。白い外壁にたくさんの窓が並ぶ外観が印象的で、パブル期に有名ディスコが入り一帯を盛り上げたことはよく知られている。そのロアビルも、「六本木五丁目プロジェクト」と呼ばれる再開発事業の計画地に含まれており、近年、テナントがほとんど撤退するなど、時期こそ明らかではないが取り壊しに向けた準備が進められている。  
 私の記憶に残るロアビルの思い出といえば、毎月第4木曜日・金曜日に奇襲市があったことだ。ロアビルは1階が道路より高くなっている構造で、地上と1階を結ぶ階段と1階の道路に海軍服や日本人形、服や時計類、着物や帯などが所狭しと並び、楽しみ立ち寄ったものだ。1階の裏に入っていた書店や婦人服を扱うブティックも面白い物がたくさんあった。  
 上の写真でも確認できるが、ロアビルの裏側の通りを渡った角にはファストフード店のSUBWAYがあり、そのお隣は米久という焼肉屋さんだった。揚げたてのフライやポテトサラダなど、昔ながらのお惣菜を味わった思い出がある。その後、米久は焼肉さんから居酒屋に転業されたと記憶している。  
 写真の右上部に黄色い角のようなものが見えるが、これはロアビルの向かい側にあるディスカウントストア、ドン・キホーテのビルの屋上に設置されるはずだった、いわゆる地味マシンのレールの一部だ。騒音や安全性などの観点から住居や商店街が設置を反対、最終的に建設は断念され、後年、このレールも撤去された。  
 交差点の周囲には電柱が立ち、各電柱の間に張り渡された多数の電線が目に見える。



**平成25年(2013年)：六本木五丁目交差点付近(上下とも)**  
 ロアビルの裏側の通りを挟んで反対側の角地、SUBWAYが入っていたビルと、米久の建物の取り壊し工事が進められている。上の写真同様、複数の電線が走る光景が日常だった。



**令和5年(2023年)：六本木五丁目交差点付近**  
 ロアビルは解体工事に向けて地上部分が仮設のパネルで覆われ、SUBWAYと米久があった場所には大きなビルが建っている。平成21年、同25年に撮影された上の3点の写真に見られる電柱と電線はなくなり、すっきりとした景観に変わっている。この間に無電柱化、電線地中化が進められたことがわかる。



**令和4年(2022年)：ロアビル**  
 わずかだが営業を続けているテナントもあり、1階のエレベーターホールへと続く入り口前の階段はパネルで覆われず、使用されている。  
 ビル右上の「RO」という赤いロゴは個性的で、表裏、ライトアップされて白い外壁に浮かびあがる様子はまた、独特の存在感を放つ。



# 六本木七丁目周辺 大きく変貌した場所

平成から令和の麻布／令和5年(2023年)の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成21年(2009年): 羅士町美術館通りの外苑東通り側入口付近



平成21年(2009年): 東京ミッドタウン西交差点付近(六本木七丁目)



令和5年(2023年): 羅士町美術館通りの外苑東通り側入口付近  
 羅士町美術館通りは、国立新美術館と外苑東通りの東京ミッドタウン東交差点付近を結ぶ通り。外苑東通り沿いの六本木七丁目周辺は、国立新美術館や東京ミッドタウンのオープン(両施設とも平成19年(2007年)にオープン)等により、駅前地区中化や街路整備事業等の道路事業にあわせた歩道の拡幅等の歩道整備も行われ、平成から令和にかけて大きく変貌した場所である。



令和5年(2023年): 東京ミッドタウン西交差点付近(六本木七丁目)  
 東京ミッドタウンのオープン前、東京ミッドタウン西交差点の角地にはレンガ色のマンションが立地していた。平成19年(2007年)の東京ミッドタウンのオープンと同時に始まった再開発により、一帯に立ち並んでいたビルやマンションは取り壊され、カフェを併設するメルセデス・ベンツのショールームとしての暫定利用を経て、平成28年(2016年)に、ガラス張りの複合ビル「TR SEVEN ROPPONGI」が竣工した。



平成21年(2009年): 羅士町美術館通りの入口付近にあった木造平屋建ての「大八ラーメン」左側の壁にある黄色い看板に手書き風の赤い字で大きく「大八」と書かれていた。若い頃、選日のように六本木スタジオでの撮影に来ていた六本木の側、撮影の打ち上げや、友人の写真家等の事務所までよくまでワイワイガヤガヤ、夜中までやっていた「大八ラーメン」。シンプルな食部そばが美味しくて、みんなよく食った行ったなあとかカメラマン、そのアシスタント、スタイリスト、ヘアメイク等々、若い朝気が六本木の夜の街によく似合っていた。その時の思い出「大八ラーメン」の前を通るとよみがえる、青春の時。



# 六本木三丁目周辺 なだれ坂

昭和・平成から令和の麻布／令和4年(2022年)の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和50年(1975年)1月:なだれ坂 坂上から (写真撮影:出口政典氏, 写真提供:出口肇久氏)



令和4年(2022年)12月:なだれ坂 坂下から



平成21年(2009年)1:なだれ坂 坂上から

開発を終えた地区 六本木三丁目なだれ坂周辺  
 六本木三丁目東地区市街地再開発による六本木グランドタワー(業務棟、商業棟、住宅棟)の建築は、平成25年(2013年)6月に着工、平成28年(2016年)10月に完了した。再開発前は、大半が片側だけの歩道で全長約180m、道幅3.4m～5.5mの狭い急坂であった。新しくなったなだれ坂は、両側に歩道が設けられ、歩道空間を有する道幅12mのゆったりとした坂道に生まれ変わった。



令和4年(2022年)3月:なだれ坂 坂上から



# 八幡町歩道橋がなくなった！！再開発が進む我善坊

令和4年(2022年)の麻布

II  
分科会メンバー作成パネルの紹介



令和4年(2022年)7月:八幡町歩道橋 桜田通り、神谷町交差点と我善交差点の間付近にある八幡町歩道橋は、虎ノ門・麻布台地区の再開発事業が進むなか、新たな交差点設置に向け、令和4年(2022年)7月から撤去工事が始まりました。



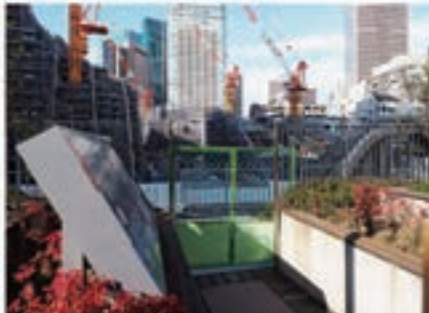
令和4年(2021年)6月:再開発がはじまり解体対象建物に仮囲いが設置されています。



令和4年(2022年)4月:再開発地区では建物がすっかり取り払われて起重機が忙しそうに働いています。



令和4年(2022年)10月:歩道橋は撤去され「歩道橋撤去のお知らせ」が掲示されています。



令和4年(2022年)12月:再開発地区の反対側の建地2階部分には歩道橋と繋がっていた部分に黄緑色の仮設橋が残っています。



令和4年(2022年)12月:再開発地区もたいぶ風景がハッキリしてきました。



令和4年(2022年)12月:八幡町歩道橋はすっかり取り払われてどんな新しい街へなるのかワクワク感が増してきました。

「八幡町歩道橋」は桜田通りを横断する歩道橋として「神谷町」の交差点と「麻布台一丁目」の横断歩道のちょうど中間地点にあり利用される人も多い歩道橋でした。

しかし、令和4年(2022年)10月までに歩道橋はあっという間に撤去されてしまいました。これは、虎ノ門・麻布台地区の再開発事業によるものです。再開発地区の真ん中に新しい道路が設置され、歩道橋のあった場所には新しい交差点が出来る予定になっています。再開発中で一時撤去(?)されてしまいましたが、2023年の秋の再開発完了時にはどのような形で生まれ変わって来るのかが楽しみです。



# 麻布とアニメ アニメの重要シーンに見る麻布の景色



「勇者、歸ります〜次の戦場は魔王城〜」 TVアニメ「勇者、歸ります」公式サイト > <https://yusuyame.com/>  
 人間の技術を集めて作られた不老不死の最強勇者の勇者達の悩み直し、主人公の成長や友情が巧みな演出設定で描かれた作品。  
 その中のエピソード08「2000年東京某所にて」では、麻布地区が現代文明の最も栄えた繁華な場所として登場している。中でも六本木中学校と六本木ヒルズに描かれたエリアは正確に再現されている。2022年4月から6月までテレビアニメが放送されていた。



「パリピ孔明（パリピこうめい）」 TVアニメ「パリピ孔明」公式サイト > <https://paripikoumei-anime.com/>  
 中国三国時代の軍師・諸葛孔明が現代の日本に、生前の服装のまま転生。自分を助けてくれた駆け出しシンガーソングライター美子の悪意に悩むべく、軍師（マネージャー）になることを申し出て、彼女をスーパースターにするためにその知略で数々の奇蹟を起こしていくストーリー。  
 中でも六本木の街並みを歩くシーンなどが効果的に取り込まれている。2022年4月から6月までテレビアニメが放送されていた。



「呪術廻戦」 TVアニメ「呪術廻戦」公式サイト > <https://jutsu-kaisen.jp/>  
 人気のバトル系ファンタジーアニメ、美しいアクションとセンスの良いデザインも話題で、とても人気がある。アニメ第一期のオープニング画面でヒロインが、毛利根岸路の階段を上り麻布十番方面に向かうシーンが登場しています。2020年10月から2021年3月までテレビアニメ第一期が放送されていた。2023年に第二期の放送が予定されている。



「花塚くいろは」 TVシリーズ「花塚くいろは」公式サイト > <http://www.hanazakiroha.jp/tv/>  
 東京出身の女子高生が、石川県の福島の旅館で成長していくストーリー。作中エピソード11で、主人公が、母親と再会した場所が、六本木ヒルズの広場をモチーフにしていると言われている。2011年4月から9月までテレビアニメが放送されていた。

このパネルに掲載されている写真は、すべて令和4年(2022年)に撮影

# 麻布とアート パブリックアートと現代アートのまち

令和4年(2022年)の麻布

II  
分科会メンバー作成パネルの紹介



2009年3月より六本木を舞台に行なわれていたアートフェスティバル「六本木アートナイト」が3年ぶりに開催された。テーマは、「マジカル大冒険 この街でアートの不思議を探せ！」であった。今回は、新型コロナウイルス対策のため、今までの一夜のオールナイト開催は行われなかった。開催期間は、2022年9月17日(土)～19日(月・祝)。なお、期間中、台風14号の影響により、展示スケジュール、プログラムが一部変更された。(撮影日2022年9月17日)



麻布のまちにはアートがあふれている。六本木交差点には平成12年から「善でる乙女」像が静かに佇んでいる。特にイベントは無くとも、常に公共空間にオブジェや作品がありふれていることで、日常における目印や、まちにカメラを向けるきっかけとなっており、まちに彩りや豊かさをもたらしている。まち歩きでの素敵な集合写真も、ミッドタウンのふもとにあるオブジェに囲まれて撮影した。



六本木は森美術館や国立新美術館をはじめ、東京における現代アートの最大の拠点としての性格を持つ。2022年のハイライトとしてあげたいのは「Chim↑Pom展:ハッピースプリング展」。ラディカルに社会に介入する彼らのアート活動に刺激を受けた人は多いのでは？そのほかにも、我々の未来社会を考えるきっかけとなる機会がたくさんあり、これは六本木ならではのと言える。

# 3年ぶりの防災訓練

令和4年(2022年)11月13日:港区総合防災訓練麻布会場

II 分科会メンバー作成パネルの紹介

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止が続いていた「港区総合防災訓練(麻布会場)」が3年ぶりに実施された。会場の六本木中学校には、麻布地区の住民の方を中心に約930人が集まり、様々な訓練に参加した。今回の防災訓練では、VR防災体験車が登場。最新のバーチャルリアリティ技術を活用し、360°の立体映像と揺れ・風圧・熱などの演出による、地震・火災・風水害の疑似体験をすることができる。校門からの巨大なVR防災体験車の搬入には苦労して、かなり時間がかかった。



校舎から見た開会式、町会ごとに陣いの上巻、色とりどりの陣が見える



記念車体験と六本木ビルズ



校庭の全体風景



プールでの放水体験



地震・火災・風水害の体験ができるVR防災体験車



VR防災体験車の車内の様子



記念車に並ぶ人と、様子観への体験授業の列



お手伝いもしてくださった六本木中学校の皆さん



子どもたちが楽しんでいた白ハイパトカーの体験乗車



浮体体験訓練



受付の様子



体育館での展示





## メンバーのことば

令和4年度（2022年度）の分科会活動の終わりに際し、各メンバーが、これまでの活動やそれぞれの想いを、「写真」と「ことば」で振り返りました。

### 座長 近藤 敏康

本年度は昨年度に比べ、麻布未来写真館活動を通じて撮影した写真を集約し、麻布未来写真館のメンバーと共にパネル展に向けての写真選定ミーティングや解説キャプションの制作の打ち合わせを少し気軽に行う事ができるようになって参りました。

その中で、今まで麻布の景色の一部とさえ思っていた様々なお店の閉店の告知の写真、ここ数年で身近になったテレワーク関連の写真、キャッシュレスの急速な普及の影響を感じさせる一枚、最前線で人々の命を守り続けている医療従事者をはじめとする生活を支える仕事をしてくださる方々への感謝を感じさせる写真などを目にする一方で、観光客の回復の兆しを示す写真、麻布の自然の力強さを感じさせる写真など、コロナ禍のトンネルから抜けるのではないかとする期待を感じさせる麻布の日常の景色の変化を撮影した写真にも数多く出会う事ができました。

活動を通じて撮影した写真や解説キャプションはパネル展やホームページでの公開をはじめ、今後の麻布未来写真館の各種活動を通じてお伝えしていければと考えております。

この報告書を手にとって頂いた皆様には、今後とも麻布未来写真館の活動にご興味を持って頂けると幸いです。



有栖川宮記念公園で行われた、環境保全のための池の浚渫と生物調査より



## メンバー 八巻 綾子

今年度から麻布未来写真館の活動に参加しています。

古い写真を見つけて著作権等を確認し、撮影場所を探し出して同じ場所の「今」を撮影し、地図や解説を加えて展示パネルを作成する。という作業プロセスのひとつひとつに、先輩メンバーが蓄積した組織知や人的ネットワークがあり、学ぶことばかりの一年でした。

Ⅲ 変化の激しい麻布のまちは、「この景色は今撮影しておかないと変わってしまう!」「何とか良い写真を残しておきたい」と感じる場面が多々あります。気づけばこの一年で大量の写真を撮っていました。これからも麻布のまちの変遷を見つめ、記録を残してゆければと思っています。

これまでの活動を振り返って



1964年8月 麻布笄町の自宅前で

## メンバー 水野 禮子

麻布には日本一高い大きなタワーマンションが出来つつある中、このまちは、何処へ行くにも交通利便性が高く、国立新美術館・森美術館・サントリー美術館等の美術館があり、生活していくには年をとっても快適に過ごせる地区です。・・・難を云うと、物価が高い。

どんどん変わっていくまちを、自分の眼で見て、変化を撮影し、行動していきたいと思っています。







## メンバー 椿由美子

コロナ禍も4年目に入った2023年の早春。あらためてこの1年をふり返ると、感染予防対策をとりつつ、落ち着いて、充実した活動ができたように思います。

年度はじめの4月には、毛利庭園や六本木さくら坂、国際文化会館などに足を運び、春爛漫の風景に心躍らせ、カメラのシャッターを切りました。

初夏のまち歩きでは、再開発工事が続く「麻布台ヒルズ」(虎ノ門・麻布台プロジェクト)の要ともいえるメインタワーの姿を目で追いつつ、麻布台の閑静な住宅街を抜け、六本木1丁目界隈の新緑に心いやされたことが思い起こされます。

秋には、東洋英和女学院中学部・高等部の文化祭、「楓祭」にご招待いただき、はじめてキャンパスの門をくぐりました。写真部をはじめ各部の発表を拝見。在校生の方々の知的で澁刺としたエネルギーを感じ、自身も青春時代に戻ったかのような心持ちで各会場をめぐりました。

飯倉いきいきプラザで開催された「ちょこっと立ち寄りカフェ」では、地元のご年配の方々との交流を通して、貴重なお話をお聞かせいただきました。3年前の秋、同じ場所で開催された同カフェにも参加。そのときいらしていた方のお姿もあり、心の中で再会を喜んだものです。

師走が間近に迫った晩秋には、麻布未来写真館初の試みともいえる、夜のまち歩きが行われました。麻布地区を「みんな」で「よく」するコミュニティデザイン活動、「ミナヨク」のメンバーの方々も初参加。日没後、支所前に集合、麻布の夜景をそれぞれの視点で撮影して歩きました。長年、筆記用具などの買い物でお世話になった画材・文具の専門店が12月末で閉店すると聞き、途中、六本木ヒルズノースタワーの一角にあるそのお店の前で、私同様、思い入れのあるメンバーの方々がくり返しシャッターを切っていた姿が思い出されます。

和気あいあいとした大家族のような分科会。みなさんと集まり、まちを歩き、語り合うことができる幸せに感謝しています。

関係者のみなさま、パネル展にお運びくださったみなさま、ありがとうございました。



2022年(令和4年)4月:ライトアップされた国際文化会館の庭園。



2022年(令和4年)11月:外苑東通りの夜景。



## 副座長 宮崎 則行

コロナ渦になってもう3年が過ぎてしまいました。

この2～3年間は予備のマスクを持参しながら徒歩圏内の麻布地区をあちこちと歩き回り、わが街を再発見する良い機会になりました。

最近になって南風の吹く日に自宅上空を羽田に向かって着陸して行くジェット機の数も、コロナ渦で減便される前に戻って来ているように感じます。

昨年秋の町内会のお祭りも、規模こそ縮小されながらも3年振りに行われました。コロナ渦で廃業するお店が目立っていた中、新しく生まれたお店もポツポツと見受けられるようになりました。

先日には有栖川宮記念公園内にある池の浚渫作業の際に行われた生物観察会で1m30cmを超す大きなナマズが捕獲されビックリしました。そして人が池に入り作業しているすぐそばでは餌（小魚）をついばむカワセミやサギを観ることができました。まだ残る麻布の自然を感じる一コマでした。

これからも刻々と変化を続ける麻布の街を楽しみながら記録していけたらと思っております。

Ⅲ  
これまでの活動を振り返って



2023年2月に行われた有栖川宮記念公園の生物観察会で捕獲したカメを観察する子どもたち



西麻布四丁目にて2024年完成予定の36階建有料老人ホーム工事中



2023年1月に東京タワーから見た六本木ヒルズ地区



## メンバー 野村知義

外出するときに持つリュックバックには、小型のデジタルカメラを入れてある。拙宅に近い飯倉交差点を北方向（撮影場所の背面）の麻布台・虎ノ門界隈は、再開発工事に伴って変化が激しい。通るたびに変化の様子を撮影し、歴史に刻み続けている。

写真1の飯倉交差点の南方向の様子は、静かな街並みと言える。「みなとアーカイブ 浮世絵でみる今昔02 飯倉交差点」には東京名所四十八景（四十二）飯倉四ツ辻の賑わいのある興味深い様子が描かれている。分離帯の下には都電の軌道が埋没している。飯倉交差点の西側へ緩やかな坂道を経て六本木へ向かう路線、北側の坂道を下り虎ノ門交差点へ向かう路線のポイント切替点でもあった。時々脱輪していたと町内に住む先輩から話を聞いたことがあった。

写真2は、「新撰東京名所図会・麻布区之部」<sup>※1</sup>に掲載された挿絵である。前述の浮世絵<sup>※2</sup>発行から30年後、に描かれた挿絵には同じように以前より多くの商店が並び賑わいのある様子が描かれている。

写真3は、おかめ桜が満開を少し過ぎた時に撮影した飯倉 熊野神社。挿絵に示すような賑わいは今は無い。何とか活気と賑わいのある地域にできないかと日々思い続け考えている。

今年度の活動では、飯倉いきいきプラザで開催された東麻布地域の今昔を語る会が開催され、地域に住み続ける方々から昔の出来事の興味あるお話を聴くことができた。

生の声の語りを残すことは、何より大切なことであると思う。麻布の多くの地域で定期的に今昔を語る会を開催し、今しか聴くことのできない事実を書き綴りあわせて音を残すことが必要と思う。

「MINATO シティハーフマラソン 2022」においては、フィニッシュ地点で給水、タオル配布を担当した。余裕で到着する、倒れこみそうな、二人が笑顔で、さらに思い思いの仮装で沿道の声援者を喜ばすファンランナーの皆さんをお迎えする場所で大会に協力することができた。

その様子はデジタル映像として未来に残すことができると思う。

<sup>※1</sup>『新撰東京名所図会 第三十五編 麻布区』  
明治34年3月発行 発行所：東陽堂

<sup>※2</sup>『東京名所四十八景 飯倉四ツ辻』  
作者名：昇齋一景 制作：明治4（1871）年



写真1 飯倉交差点（撮影：2023年3月）



写真2 麻布熊野神社之図 ※1



写真3 飯倉 熊野神社（撮影：2023年3月）



## メンバー 及川 廣子

コロナ過で子どもが消えた公園に元気な声と笑顔がもどる

思えばコロナ禍という言葉と付き合いながら早令和5年。

先日、筭小学校への道すがらふと、筭公園に目をやると子どもたちの元気な声と、遊具に並ぶ子どもたちが目に入り思わず立ち止まり暫く見ていた。

そういえば、コロナ禍の中、まちあるき撮影をしたことを思い出した。当時、誰も入ることのできない公園内の木々も寂しそうに、しかし季節は確かに廻っていた。

そして、今はコロナ過も少しずつ緩やかになり、公園のロープは取り除かれている。

子どもや見守る大人もマスクは外さないが「遊び」という公園は大切な居場所である。

私もその光景に嬉しくなって、目立たぬようにスマホで撮ってみた。写真が上手くないのはカメラのせいにしてはいる。でもまちあるき撮影は楽しい。

これも麻布未来写真館のメンバーになれたからこそ。何よりも先輩方が優しい。

私にとって麻布未来写真館とは「心地よい居場所」である。

1年間に感謝

余談・・・・・・・・

鳥居坂だけではありませんが、坂は歴史の語り部と思っています。ずっと坂に関して思っていました。年齢とともに坂はきついけれど坂のある風景ってオシャレな気がします。

あのビルの前はどんな建物だったのだろうか、当時の出来事は何だったのだろうか、坂の両端の木々は未だに残っている。

記憶も薄れる中この坂は車が走ろうと人が歩こうとじっと耐え、見守っていた気がする。

坂は歴史の語り部と思う。



令和5年(2023年)3月: ついにロアビルの広告が消えた



## メンバー 岡崎 純子

2023年1月1日、飯倉町会小林徹会長から「麻布未来写真館」メンバーにお声掛けいただき、アークヒルズ仙石山森タワー屋上から、3年ぶりに素晴らしい初日の出を観ることが出来ました。高所からの撮影の機会をいただきましたことを深く感謝いたしております。

高い所に登ってみますと、コロナ禍でも麻布・六本木地区が大きく変化していることを感じました。麻布台ヒルズも建設がかなり進行しており、2023年秋には開業予定だそうです。大好きだった我善坊の光景、沢山撮影したつもりでしたが、もっと撮っておけばよかったとつくづく思いました。これからも変わりゆく街並みの記録を撮り続けていきたいです。

今年度から新しいメンバーも加わり、「麻布未来写真館」はさらにパワーアップして発展していくことでしょう。

ここに「パネル展」を観ていただいた方々、この活動にご協力いただきました多くの関係者の皆様方にお礼申し上げます。



令和5年(2023年)1月1日:アークヒルズ 仙石山森タワー屋上から麻布・六本木の街を見おろす(左側に写るのは建設中の麻布台ヒルズ)



令和4年(2022年)11月2日:東京タワーメインデッキから建設中の麻布台ヒルズをのぞむ



令和4年(2022年)3月25日:なだれ坂 満開の陽光桜



## メンバー 吉川一郎

### ステレオ写真に傾倒しています

銀塩写真が発明されすぐにステレオ写真が発明されました。当時のステレオ写真を撮影するカメラは当然2組のカメラが一緒になったもので、撮影した写真はステレオスコープで見えていたものでした。当時のステレオ写真を見ると立体像としては不完全です。これらの理由からだと推察しますが、一般化することではなくマニアックな撮影法であったと思われます。私が最初に見たステレオ写真は脳血管像です。立体像として素晴らしく唖然としました。この時、会得したのがステレオスコープを用いない裸眼交差法によるステレオ像です。しかし、医療界でも主流になりませんでした。

ステレオ写真を撮影するためには右目と左目の距離だけ開けて撮影しなくてはなりません。現在でも、二眼になったステレオカメラが発売されてきました。これらのカメラは多分不完全なステレオ写真にしかならなかったはずですが。ステレオカメラは焦点距離と被写体までの距離の関係が無視されているためです。デジタルカメラでこれらの問題を解決できる撮影ができるようになりました。ステレオ写真の撮影は2枚の写真が必要です。2枚の写真を同じように撮影するのはほぼ不可能ですが、写真を修正(被写体の大きさ、角度)することでステレオ画像が得られます。ステレオ写真は写真の世界を変える力があると思っています。二次元の薄っぺらな写真から解放されます。ただ、交差法を会得するのが難しい。これができればステレオ写真の世界に没入できます。

III  
これまでの活動を振り返って



福の文字と横の紐の束はどちらが前にありますか？  
魚のお腹の膨らみがわかりますか？



坂道が実感できます



蓮の葉が見事に分離しています

ステレオ写真の利点：①立体像 ②ダイナミックレンジが1.4倍に拡大できる ③コントラストが上がる ④視覚的分解能が上がる ⑤情報量が増加する  
ステレオ写真の欠点：①動いている被写体は撮影できない ②後処理に時間と労力が必要 ③万人がステレオ視できない ④観察には10インチ以上のモニターが必要



### メンバー 石井 諒太

当初は見学者として参加しておりましたが、2022年から分科会の正規メンバーとして活動を開始しました。そのため、はじめて尽くしの一年となりました。新型コロナが落ち着き、念願のまち歩きに参加することができました。各々の分科会メンバーが持つ多様な視点や切り口をお互いに共有することができ、一人でまち歩きするのとは全く異なる楽しみ方ができました。六本木ヒルズの一画では、アンモナイトの化石が埋まる大理石の壁に群がる私たちの姿をよく覚えています。多くの人々がただ通りすぎる場所でも、おもしろい点を共有してみなで楽しむことができました。なにより、たまたま周辺にいた一般の方も興味を持って見始めたことも印象的でした。

パネルの作成に初期段階から関わったのもはじめてでした。パネル作成の過程を身をもって把握することができました。一枚のパネルにどんな写真を並べればトピックがよく伝わるかを考えて整理したり、まち歩きなどで撮りためた写真からどんなトピックでパネル作成ができそうかを構想したりしました。他にも、港区本庁一階でのパネル展示の設営を行うなど、麻布未来写真館の活動の全容をようやく知ることができました。今後も麻布地区の記憶を残していく取組みを楽しみながら、大学院生として研究のヒントも得られればと考えています。



### III

これまでの活動を振り返って



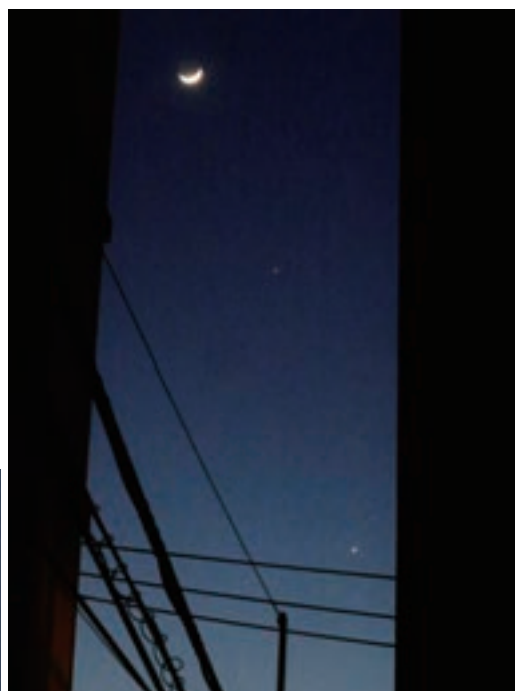
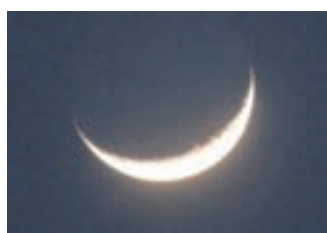
#### メンバー 荒澤 經子

2022年6月4日土曜日の午前中、爽やかな気候の中、麻布未来写真館のメンバーで六本木の裏通りで写真を撮る中、ふと、上を向いたら、大きなドーナツのような雲を見つけ、思わず、シャッターを切りました。

#### 副座長 入江 誠

麻布の空

麻布でも見られた、三日月と木星、それと金星。上り坂、途中の高層マンションの間から見られた。もっとも西空が良く開けた場所まで足を運べば当然見えるのですが、そこまで行かなくても三つの星々が縦一列に望めました。この2月23日のこと、電線越しに撮った1コマ、何の変哲もないのですが、自分ながら感動した。街歩きしていた折に達川先生が「風景、建物だけではなく人物、自転車、車等も入れてシャッターを切ると、その情景が良く分かるよ」とアドバイスを頂いた事を思い出す。電線だらけの都会の中、いつかは、この電線もなくなる日が来るかもしれないと思いつつの1コマでした。







## メンバー 街いく探検隊 (若松 保治)

街いく探検隊は、将来の街の担い手となる子ども達と清掃活動をしなが、探検するようにまち歩きを行うボランティア団体です。毎月1回、六本木ヒルズに隣接する妙経寺さんを中心に、麻布や六本木、西麻布のまちで活動しています。

ゴミを探しながらゆっくり歩くと、普段なら気づかない街の変化や面白いものを発見したりします。さらに、麻布には教科書に出て来る歴史上の建物や出来事もあり、坂や湧水、水路もたくさんあります。実は子ども達は、そんな昔のコトやモノにとっても興味を持ってくれます。

「昔、ここは豆腐屋さんだったんだよ！」「川があったから橋の欄干があるんだよ」

目をつぶれば浮かぶ麻布の昔の様子、そこに想いを馳せることが、まちへの愛着となり、将来のまちを想像することにつながると思います。

また、まち歩きを一緒にする参加者や、街で出会う方々との交流も楽しいものです。2022年のハロウィンの仮装で活動した時には、サンマリノ共和国大使館の前で、マンリオ・カデロ大使に偶然お会いしパチリ。子ども達も思いがけない国際交流にいつもよりテンションが上がっていました。

麻布未来写真館の活動で、今と昔のまちの様子を訪ね歩くことは、将来の担い手たちにまちを受け継ぐためにも、大切な活動だと思います。これからもこの活動を通じて、子ども達にまちの様子をもっと伝えていきたいと思っています。

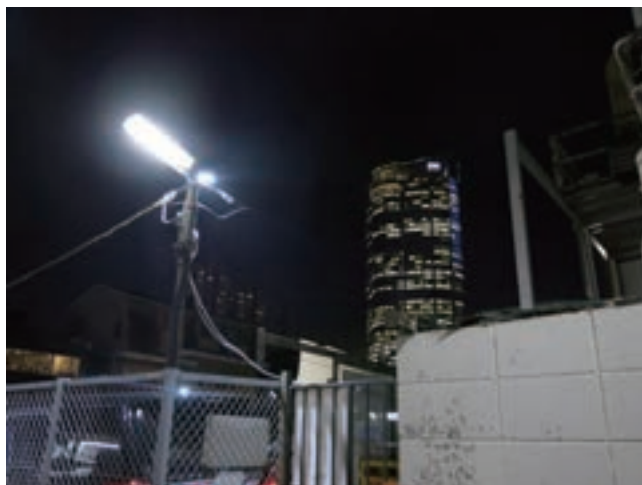


活動詳細はQRコード、またはウェブで「街いく探検隊」で検索！



## メンバー 露木 尚文

本年度から参加している露木尚文と申します。自己紹介として、最近では、散歩愛好家などというようにしています。まち歩きは結構するほうです。あざぶ達人ラボの事務局などをやらせていただいているので、麻布・六本木の街のことについてはそれなりに理解しているつもりでございました。それで、麻布未来写真館には軽い気持ちで入門させていただいたのです。ところが、写真機を持って、いざ街を歩いてみると、意外なほどシャッターが切れない。いろいろなことが気になってテーマが絞れない。そんな感じで一年が終わってしまいました。



私は、麻布に住んでいるわけではなく、また、職場は渋谷の外れの幡ヶ谷にあります。六本木には京王線と大江戸線を乗り継いでやってきます。だいたい平日の夕方から夜の時間帯が多く、六本木駅の長い長いエスカレーターを登り、交差点あたりに出て、ずいぶん背が低くなってしまった感じのする東京タワーに向かって歩き、右に曲がってハードロックカフェの前を通って麻布区民協働スペースへと向かいます。結構、頻繁にやってきます。そんなときにときどき夜景の写真などを撮ってみたりするわけです。麻布は大使館がたくさんある国際的な街、六本木は煌びやかな繁華街、でも一本裏道に入ると不思議な夜の風景があったりもするのです。路地と空き地と遠くの高層ビルの灯り。東京の中心なのに何とも言えない場末感。そんなのもこのまちの特徴なのでしょうね。

職場の近所でまちづくり活動に取り組んでいる人が昔の街並みの写真は思いのほか見つからないとぼやいていました。確かに、日常の場面を写真に撮っておくことはあまりないですね。次年度は、あまり狙わずに、普通のまち並みの写真を撮りためてみようかなと思ったりしています。どうぞよろしく願いいたします。

## 講師 達川 清

新旧和気あいあいと今の六本木の変わり具合を撮影しています。

以前より目的意識が鮮明になってきた様子が写真に現れてきて嬉しいです。

まだまだ進化し続ける六本木、港区。

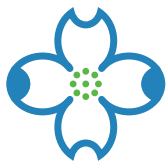
この変化を楽しみに、より良い街になって行く様子をみんなで見て行きます。

参加希望の方！古き麻布地区の写真をお持ちの方！大歓迎します。

一緒に歩きましょう！



区の木



ハナミズキ

区の花



アジサイ



バラ



港区のマークは、昭和 24 年 7 月 30 日に制定しました。

旧芝・麻布・赤坂の 3 区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

## 港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 6 0 年 8 月 1 5 日

港 区

刊行物発行番号 2022273-1435

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 令和 4 年度 (2022 年度) 活動報告

令和 5 年 (2023 年) 3 月 発行

編集・発行 港区麻布地区総合支所協働推進課

〒 106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812 ファックス 03-3583-3782 <https://www.city.minato.tokyo.jp/>



## 麻布未来写真館

### 参加メンバー随時募集！



麻布未来写真館では、メンバーの募集をしています。皆さまぜひ参加してみませんか？会議など活動の見学が可能です。お気軽に問合せください。

### 古い写真・資料を探しています



明治～平成 10 年代頃の写真・資料等を募集しています。麻布地区の建物や風景、お祭りなどの懐かしい写真がありましたら、下記問合せまでお寄せください。

### 地域 SNS アプリ「PIAZZA」



身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリ「PIAZZA」に、麻布未来写真館の活動を投稿しています。ぜひご覧ください。

### 「麻布未来写真館」の情報はこちら

港区ホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/>

麻布未来写真館

検索



問合せ

03-5114-8812

港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当